様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２４年４月 10　日現在

機関番号：３２６８９
研究種目：基盤研究（Ｃ）
研究期間：　2009 年度　～　2011 年度
課題番号：２１５２０５５０
研究課題名（和文）　日本語教材の史的研究

研究課題名（英文）　Historical research on Japanese teaching materials

研究代表者　　吉岡　英幸（YOSHIOKA Hideyuki）
（　早稲田大学日本語教育研究科　教授　）

研究者番号：０００９２４６１

研究成果の概要（和文）：戦後(1946 年～2010 年)作成された日本語教材を調査し、そのリストを作成した。そして、留学生、ビジネスパーソンなどの対象者別、読解や聴解などの内容別に見た教材の変遷を明らかにした。また、教材研究に関する論文を調査し、その文献リストを作成した。

研究成果の概要（英文）：Research on Japanese teaching education materials which was published after the World War Second was made and the list based on the outcome was produced. Also the research uncovered the transition of the teaching materials by items such as reading comprehension and listening comprehension etc. as well as learners such as overseas students, business persons and so on. In addition to the paper and book review on the teaching materials was examined and the literature on the subject was listed.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２１年度	１，１００，０００	３３０，０００	１，４３０，０００
２２年度	７００，０００	２１０，０００	９１０，０００
２３年度	１，１００，０００	３３０，０００	１，４３０，０００
年度			
年度			
総　計	２，９００，０００	８７０，０００	３，７７０，０００

研究分野：　人文学
科研費の分科・細目：言語学・日本語教育
キーワード：日本語教材、史的変遷、対象別、分野別、研究論文

１．研究開始当初の背景

(1)戦前及び戦後特に 1970 年以前の日本語教材が既に散逸してきている。

(2)これまで刊行された日本語教材に関する文献リストのまとまった資料がなく、公的機関にも教材は保管されていない。

(3)これまでの日本語教材の特徴を表す要素などを分析し、分類したリストの作成が行われていない。

(4)戦後の日本語教材に関する研究についてのまとまった資料、文献がない。そのため、現在の日本語教材に関する研究がどのような状況になっているか、日本語教材がどのような変遷をたどってきたかのどの把握ができない。

２．研究の目的

⑴明治期以降現代までの日本語教材の全容を把握することが最終目標である。

⑵1945 年までの日本語教材については既に調査し、教材の書名、著者、発行機関、発行年、所蔵機関などの情報を含むリストを作成した。よって、今回は 1946 年以降 2010 年までの日本語教材の文献を調査する。

⑶上記の教材の書名、発行年、著者、発行機関、レベル、対象、分野、媒体などを分析・分類し、教材の史的変遷を明らかにする。

⑷1946 年以降の日本語教材に関する研究論文を調査し、収集すると同時に、教材内容や使用対象などのキーワードを付して、分類に供する。

３．研究の方法

⑴国内外に所蔵されている日本語教材を広く調査し、リストを作成する。リストには、発行年、教材名、(和名、英語名なども)、著者、発行機関、レベル、対象、分野、媒体、指導書の有無などの項目をつける。

⑵日本語教材の構成・内容などから分析を行い、各教材の対象別、内容別、媒体別などの分類を行う。

⑶日本語教材を史的変遷から見た場合の特徴を明らかにする。

⑷1946 年以降の日本語教材に関する研究論文を大学の紀要や学会誌などから収集し、リストを作成する。リストには著者名、発行年、論文タイトル、所載雑誌、発行機関、教材内容や使用対象などのその論文のキーワードにあたるものを取り出して記入する項目欄を設ける。そして、大まかな分野や内容についての分類も行う。

４．研究成果

研究成果は『日本語教材目録及び日本語教材関連論文目録』(３５４ページ)としてまとめた。以下、調査結果明らかになったことを[Ⅰ日本語教材]、[Ⅱ日本語教材関連の研究論文]としてまとめる。

[Ⅰ．日本語教材]

1946 年から 2010 年まで出版された日本語教材(日本語能力試験や日本留学試験などの受験対策のための教材、辞典類は除外した。また、シリーズ教材原則として１点としてカウントした)を対象に調査、分析を行った。その結果明らかになったことは以下の表のとおりである。

⑴日本語教材の出版数

年代	50年	60年	70年	80年	90年	2千年	計
教材	16	66	141	239	473	561	1496

① 日本語教材の出版数は約 1500 点である。

② 各年代とも前の年代を上回り、順調に増加し続けている。

③ 伸び率でみるとそれまで最低でも 2 倍あったのに、2000 年以降がやや鈍った。

⑵学習内容別日本語教材

内容(タイプ)	教材数
総合	３７２
読解	８２
会話・口頭表現	１６８
作文・文章表現	６２
聴解	３７
文字	１５９
文法	１３４
語彙	５３
発音	１６
日本事情	６３
教科、専門	３９

① 年代を通じて最も多く作成されたのは総合教材である。

② 技能教材で最も多かったのは会話・口頭表現教材であり、どの年代でも作成されてきた。

④ 読解教材の数は少ないが、各年代で作成された。

⑤ 聴解と作文・文章表現教材は 80 年代から作成されてきた。

⑥ 文字教材は漢字、かな、漢字とかなの文字全般の 3 種類に分類される。

年代	50	60	70	80	90	2千	計
漢字	5	5	9	13	24	48	101
かな		1	4	7	11	21	44
文字		3	6	1	3	3	14

漢字とかな教材の比率は約７：３である。初めは特定の教科書に準拠した練習帳やカード、単語帳形式のもの、当用漢字や常用漢字に基づいたガイド的なものｇさ多かったが、近年では絵と組み合わせた覚えやすく工夫されたものが増えた。かな教材も連想法など、絵と食い見合わせた楽しく覚えやすいものが増えた。

⑦ 文法教材は、60 年代までは英語で日本語の文法をについて解説したものが多かったが、それ以降は日本語の練習形式のものが多くなった。

⑧ 語彙教材は、用語集、単語集、基礎語彙集が中心で、辞書的な性格を持つ教材が多かった。また、擬声語・擬態語を扱っ

た教材が比較的多い。

⑨ 発音教材は、非常に少なく、教材開発という点では最も遅れている。最近はシャドーイングの教材が目に付く。

⑩ 日本事情教材は、日本の社会や日本人の生活習慣を紹介するものが一般的であるが、地理や歴史など特定のテーマにしぼったものもあった。最近ではけがや病気、地震などの緊急時のための教材も作成されている。

⑪ 「教科」は小中学校などで算数などの教科科目のための用語などを学習するものであり、「専門」は大学の経済や法律、科学技術など分野の専門用語を学習するための教材で、後者は80年代に入ってから、全社は９０念代に入ってから作成され始めた。

（３）学習対象別教材

学習対象者	教材数
大学生	127
技術研修生	26
ビジネスパーソン	69
年少者	66
中国帰国者	24
地域日本語教育	9
看護師・介護福祉士	6

① 日本語教材はどの年代でも大学生を対象としたものが中心であった。

② 技術研修生のための教材は、数は多くないがどの年代でもコンスタントに作成されていた。

③ ビジネスパーソン、年少者、中国帰国者のための教材は､80年代から作成された。

④ 地域日本語教育用の教材は 90 年代から作成された。

⑤ 看護師･介護福祉士のための教材は､2000年以降に作成された。

（４）媒体から見た日本語教材

① 映画教材は60，70年代に公的機関により作成された。

② 音声テープ教材は、どの年代でも作成された。当初は教科書の本文や会話の部分の吹き込みが主であった。

③ ビデオ教材は､70年代から作成され始め、映像教材の中心としての役割を果たした。しかし、90年代らCDやDVD教材が徐々に大きな役割を果たし始めた。

④ 絵の使用は簡便なため、80年代から作成され、以降各年代で作成され続けた。

［Ⅱ．日本語教材関連の研究論文］

日本語教材に関する研究論文を大学の紀要や学会誌などを調査し分析した結果、以下のようなことがわかった。

（１）媒体による分類では、ビデオ・テレビ番組、マルチメディア教材、映画・映像教材、視聴覚教材、CAI・CALL 教材、E ラーニングに関する研究論文が多かった。

（２）種類､タイプによる分類では､副教材、専門科目、地域日本語教育用教材、素材型・リソース教材、タスクに関する研究論文が多かった。

（３）内容による分類では、語彙・文法教材に関する論文、読解教材に関する論文、漢字や仮名など文字教材に関する論文、聴解教材に関する論文、会話教材に関する論文の順で多かった。そのほか、日本事情・文化教材や音声教材、作文教材、表現教材、ジェンダー・フェミニズムに関する論文なども目に付いた。また、日本語教材を軸にした日本語教育史の論文も 90 年代から発表され始めた。

（４）論文の目的による分類から見ると、新たな教材開発または改訂作業などのために行った「作成」に関するもの、教材の使用法などの「実践」に関するもの、教室で実際に使用した結果や新たな教材の作成などに関する「報告」がある。

（５）論文の質的内容から見ると、教材分析を行ったもの、教材の変遷やある特定の時代の教材についての内容、ある教材の紹介、教材のあり方や教材の可能性などについての内容が多かった。

（６）研究論文の分析から、教材研究の視点には以下のようなものが考えられる。

① 編集目的、②学習対象者、③レベル、④学習内容、⑤シラバス、⑥学習項目とその量･配列､⑦練習問題などの形式･内容、⑧指導法､⑨学習時間数､⑩構成､⑪媒体、⑫媒介語、⑬自習の可能性、⑭付属教材、⑮体裁

以上は教材分析の視点であるが、編纂者、発行機関、社会などのニーズと関係により、なぜそのような教材が生まれたのかという背景から教材を見るという視点が教材研究には求められる。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計２　件）

① 吉岡英幸、日本語教材から見た日本語能力、早稲田日本語教育学、査読有、9巻、2011、１－７

② 吉岡英幸、最近の日本語教材の動向、日本語学、査読無、28－10、2009、４－11

〔学会発表〕（計２　件）

① 吉岡英幸他 11 名､多文化共生能力を育成する日本語教科書の開発、日本語教

育研究世界大会、２０１１．８、中国・天津外国語大学
② 吉岡英幸、日本語教材の変遷と現状・課題、韓国日語教育学会、２０１２．４、韓国・建国大学

〔図書〕（計　件）
〔産業財産権〕
○出願状況（計　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計◇件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
（　　）

研究者番号：

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：